講義名	中国語Ａ				授業形態	
担当教員	森　宏子	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 １時限			
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード: CHI121

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。
中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。
テキストでは基本的で活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

※中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません

到達目標

１．中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
２．平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
３．平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる

中国語検定試験のレベルを目安とすると、準４級～４級レベルの中国語に相応します。検定試験準４級から４級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

授業でやり残したドリル

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します：
平常点（出席状況、受講態度）　３０％
中間試験と期末試験　７０％

※中間試験、期末試験を受験しないと、授業を放棄したものとみなします。

履修にあたっての注意・助言他

・必ず教科書を購入して授業にのぞんでください。受講態度として評価の対象とします。

・留学生の人は、日本語で中国語を学ぶことを理解した上で、履修して下さい。

教科書

.　始めよう！中国語.	南雲智、他	白水社	2100＋税	9784560069127

参考図書

.必要に応じて案内します.				

その他

授業計画

1.授業案内、発音練習：声調、単母音、子音
予習：テキストに目を通す、発音の音声を聞く（2時間）／復習：発音のふり返り（2時間）

2.発音練習：子音、複合母音、鼻母音、あいさつ言葉
予習：テキストに目を通す。発音の音声を聞く（2時間）／復習：発音のふり返り（2時間）

3.第1課　人称代名詞、動詞述語文など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

4.第2課　“是”構文、疑問詞“谁”と“什么”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

5.第3課　指示代名詞、「所有」の”有”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

6.第4課　形容詞述語文、助動詞“想”と“要”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

7.第5課　日付・曜日・時刻の言い方、比較文など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

8.第6課　場所を表わす代名詞、「存在」の“在”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

9.中間試験
予習：試験準備（4時間）

10.第7課　前置詞“在”と“离”、語気助詞“吧”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

11.第8課　完了の“了”、動詞の重ね型など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

12.第9課　動作の状態や程度を表わす表現など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

13.第10課　経験の“过”、連動文など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

14.第11課　動作の進行を表わす表現、持続の“着”など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

15.第12課　“是～的”構文、方向補語など
予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）／復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）

※授業の進度は1.5回で１課を消化するペースを基本とします

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」・経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」・人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考